へ13
2378
41

特
2378
141

二人助六

江戸紫手染色揚

二人揚巻　前編上冊

式亭小三馬作

香蝶樓國貞画

天保八丁酉春新彫
江戸芝神明前三嶋町
佐野屋喜兵衛版

一

市川元代助相遊幼名九蔵い能優の道のふかくまで類文筆の間に遊び極世のうち自作の正本数多かり中にも勝れく大当の花の江戸助六の正本ばかりもむし良花ふ字名を流せし方屋助八徳用ご心中世話狂言を模造沃剪して名ふ縁ある花の江戸助六三浦屋揚巻ふ撮合せて肺中ハ正徳四巳の四月愛護櫻と云ふ名題より其后曽我ふ助と取且這時より浄瑠理を江戸節ふく勤むる由役者全書に今ハ云ふ去ふ百有餘年の星霜と経く七代目の今に至りとすの狂言と勤むれば看管の山を定紋の三丁目さうなる大入の市川の流を絶せぬ力ありけるとなれば助六縁に従て行て今茲ふ團十郎が代々変度花の實注ハ江戸櫻の薫り高く代々續く抹額外ふ孔雀色くぬ江戸紫と早染ふ通揚しの手染乃拙き上りがよいとの高評と酉の春風振ハしく東風と御用向書房ふ入りて作者が筆ふ

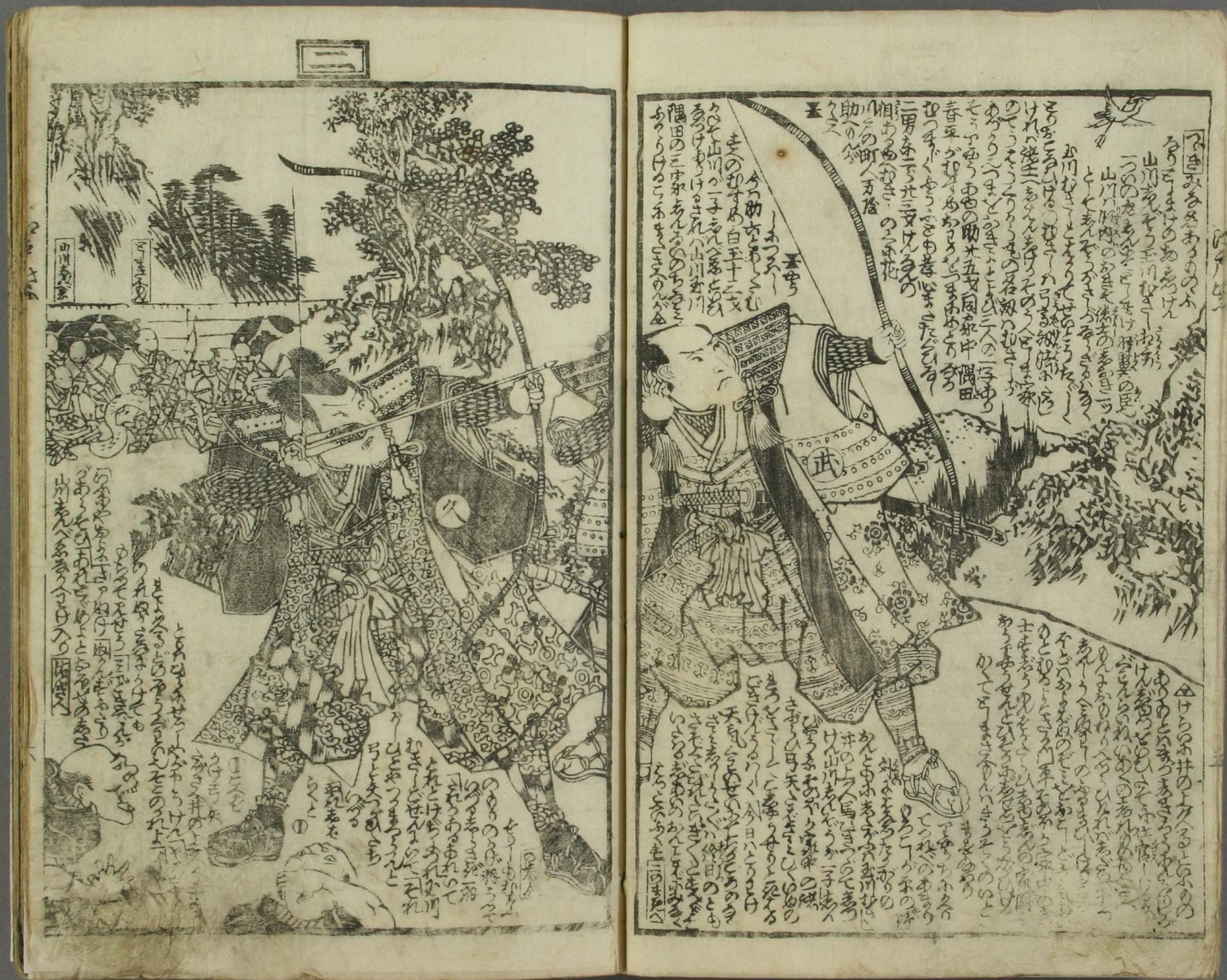
江戸の水製法の間

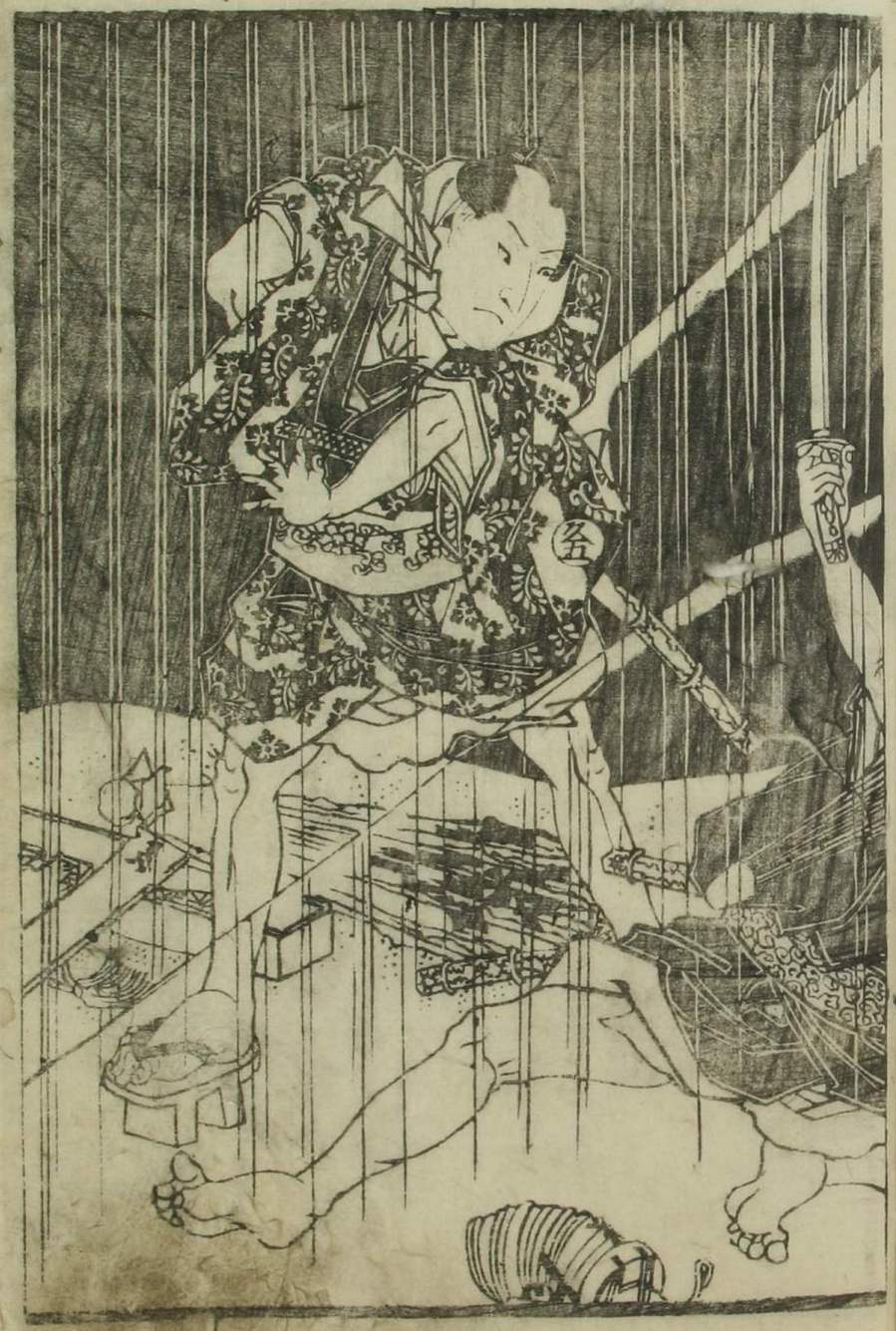
天保八年丁酉子孟春發兒　式亭小三馬戯題

助

三ツ人形
所作
京の図

助
あ
仙
伊
女
四





若
新

お
助

長崎一家傳

御藥

壽世保元方　東垣考方

白雪糕

御進物　袋入　折詰

直應軒常觀調合

御一小児乳の代りとして
もっぱらもっぱらふよう
その外諸病ふよう

御目下

御菓子　白せつかう

元祖精製所

江戸日本橋坂本町壹丁目
あざらし問屋
川口宇兵衛

但一産後小用さく乳を出し一元氣を中ゝ多く脾胃をとゝのへ腎精を培ふ一きこうん を活ようく一うるおひを生ずる大人小児仮中一切ふよう　小児つゆふりもあるゆゑ七才までは

あけまゝ成長の後をこゝろみる

右白せつかうハ享保年中ゝ當所西て賣弘め當天保迄

凡百十余年相續仕れ

小三馬作

國貞画

○式亭家製菓品

江戸の名　代五十文　代百文　代百五十文　六十四文　百文

金勢丸　大包代百文　小包代五十文

小児百日せき丸　寿命藥　代百文

香蝶樓國貞画
芝神明前 佐野喜版

小三馬作
國貞画

前伐八冊毎編四冊

宿もり紀之編下冊

天保八年
丁酉新鐫

芝神明前喜鶴堂板

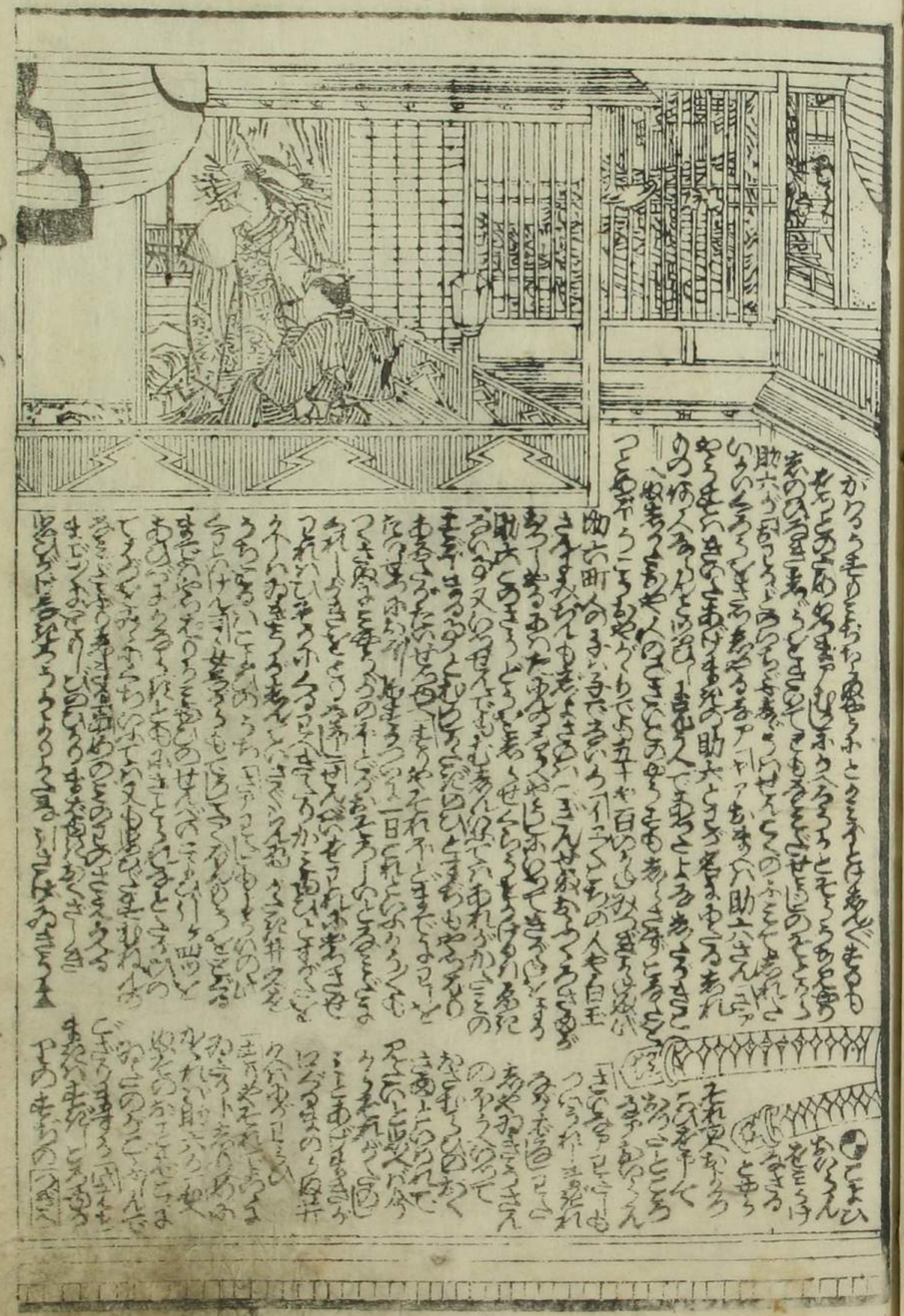
揚

揚
仙

晋

金銀出入帳
大福帳
万代取帳
四
助

助
場



助

久
揚

久
助
揚

香蝶樓國貞画　式亭小三馬作

天保八丁酉年孟春發販目録

傾城三國志第五編 全八冊　墨川亭雪麿作　香蝶樓國貞画

今昔倭説苑 全四冊　墨川亭雪麿作　勇齋國芳画

西國奇談月の夜神樂 三編全六冊　五柳亭徳升作　溪齋英泉画

梅松論竹取物語 全四冊　墨川亭雪麿作　五雲亭貞秀画

東國奇談月の夜櫻 二編全冊　五柳亭徳升作　歌川國芳画

寐物語夢白鞘 全冊　美濃屋三勝　近江屋半七　勇齋國芳画

二人助六式亭小三馬作　二人揚巻江戸紫手染色揚 全八冊　地本　繪草紙　香蝶樓國貞画

美艶仙女香 八冊　三丁目横町坂本氏製

黒油美女香 八冊　芝神明前三嶋町角　佐野屋喜兵衛板

極彩色摺五十三次景色入扇 大奉書長切　香蝶樓國貞画

閻屋喜鶴堂

江戸繁華彩色揚

丁酉春新版

後編

上

式亭小三馬作
香蝶樓國貞画

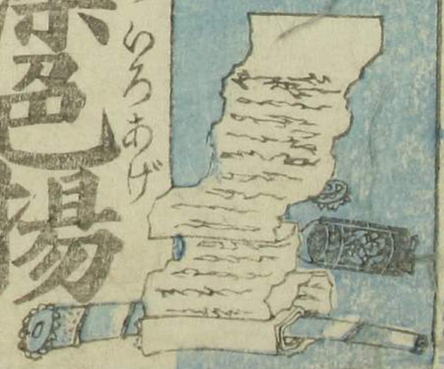
二人助六
二人揚巻

江戸紫手染色揚

後編 上之巻

天保八丁酉年孟春發兌

江戸芝神明前三嶋町角
佐野屋喜兵衛梓



玉川の清の助
後の勢之助
助時揚巻六ろく
二代目時揚巻

井の上久馬

香蝶樓が當世と想ふ
奥村が古画を閲く
市川の流れ絶せぬ家の藝助が
舞臺に咲せ
言葉の花に樂宝黄金の
實を結ぶ花實相對の大立者。
戯場の富貴と
奥村文用華

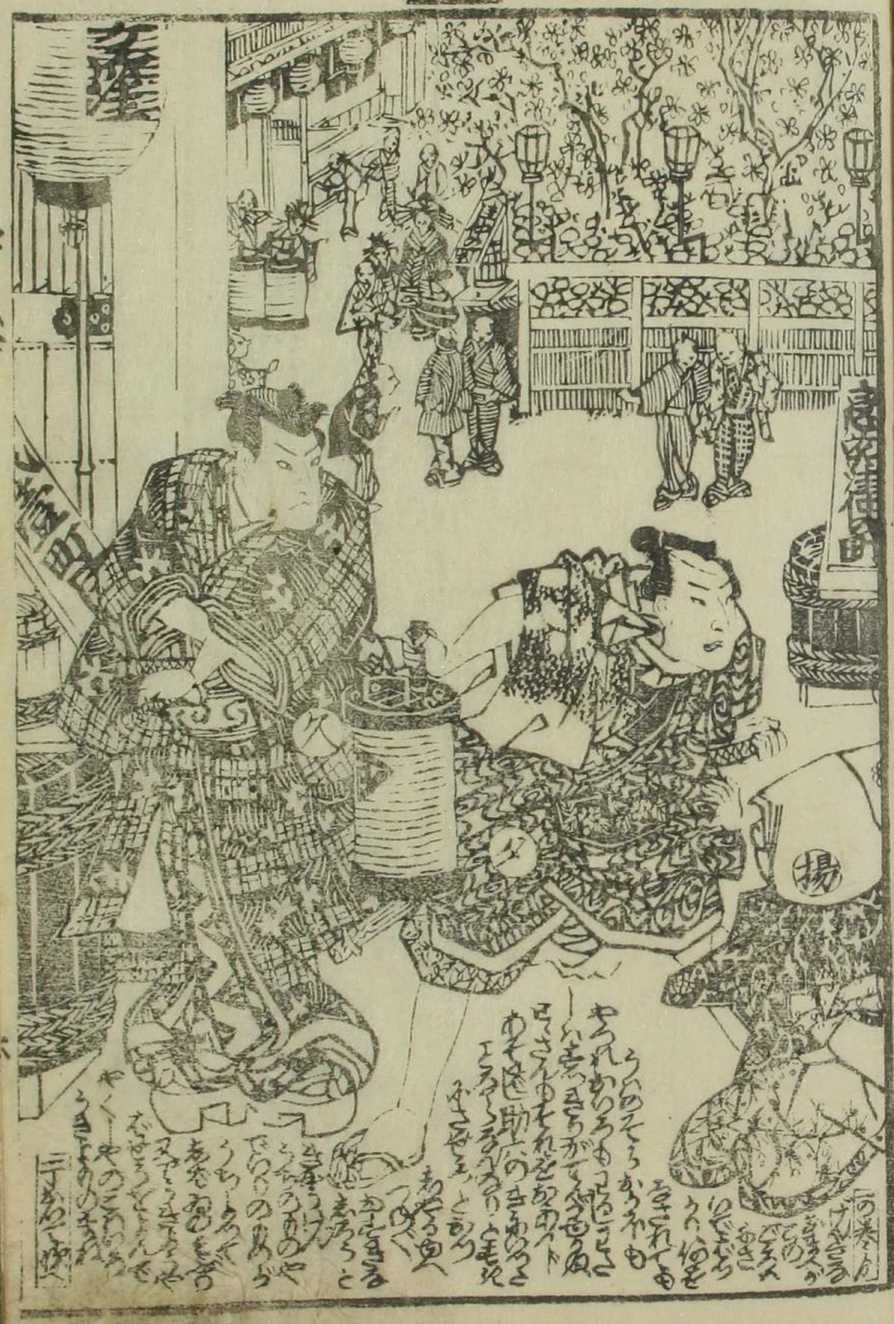
歌川の新しきを知る
菱川師宣華
菱川の故きを温く
見物の上下
扇
員を移す
家の定紋

花見茶屋
仙
場

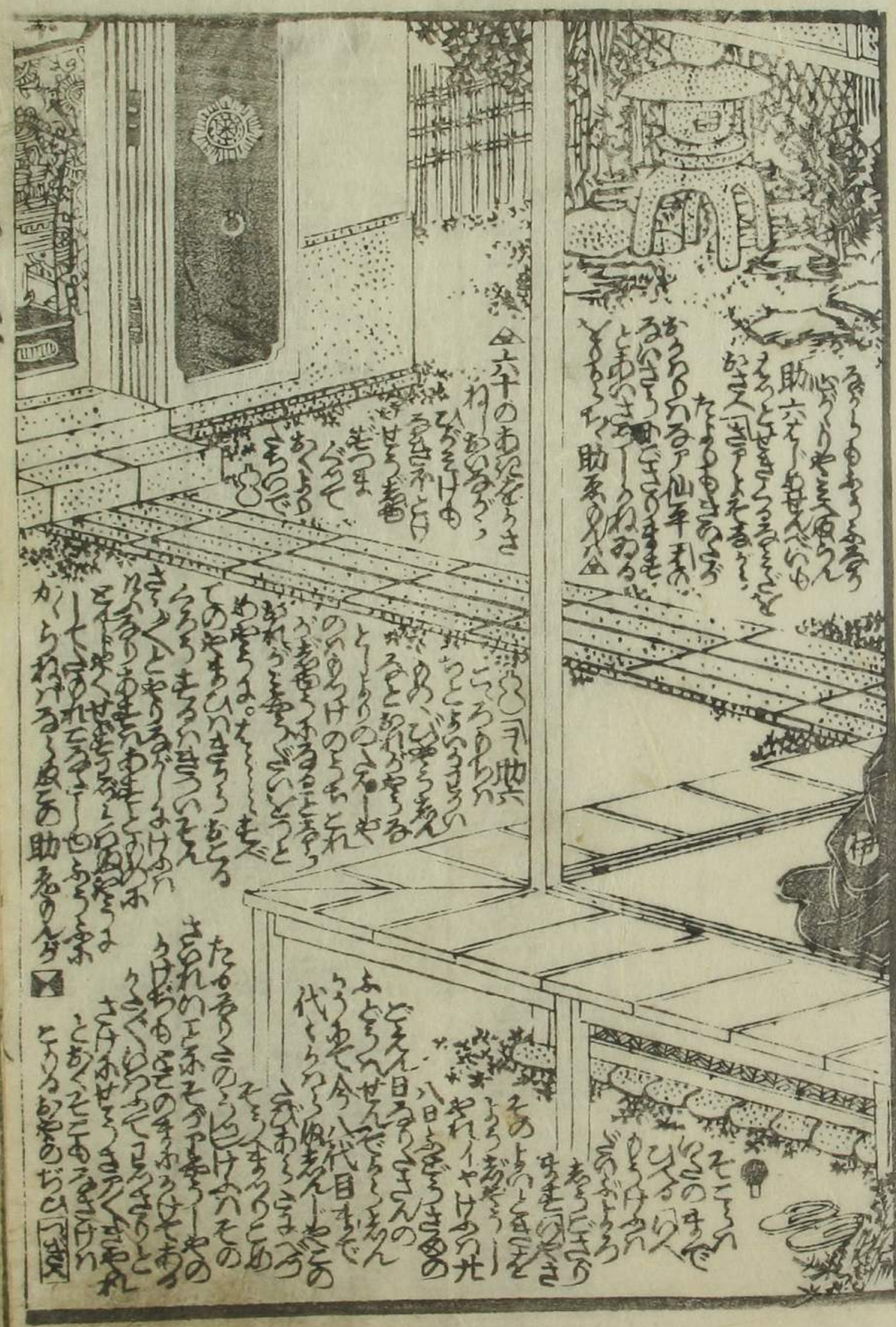
晋
助

仙
助

仙
助


揚

西蓮
荷
西蓮
野



助
房

助

清浄
精製 白妙

きさんなる粉なり
一包 代三十二銅

此おろくいいうほど色の黒き方ゆへも男女ホかぎらず色まひ又いろ〳〵ホ入ときうまれをつゝ交ぜホぬふ〳〵の中へおしてべ入色用れバ色をゞ書のめくホ
光浄をバ白玉のごとくホ〳〵きめをバてまらホ〳〵年寄ても
なほ仕事の毒こおろへを付ぢてきれ以ホ見立ゴ祐ぬ
ホ測の良方ホれバ用ひても功能を知ら〳〵べし

本家調合所 江戸中橋廣小路町
書物屋 北林堂 西宮弥兵衛

式亭小三馬作
香蝶樓國貞画
芝神明前
佐野喜版
下

江戸ばなし

彩色画

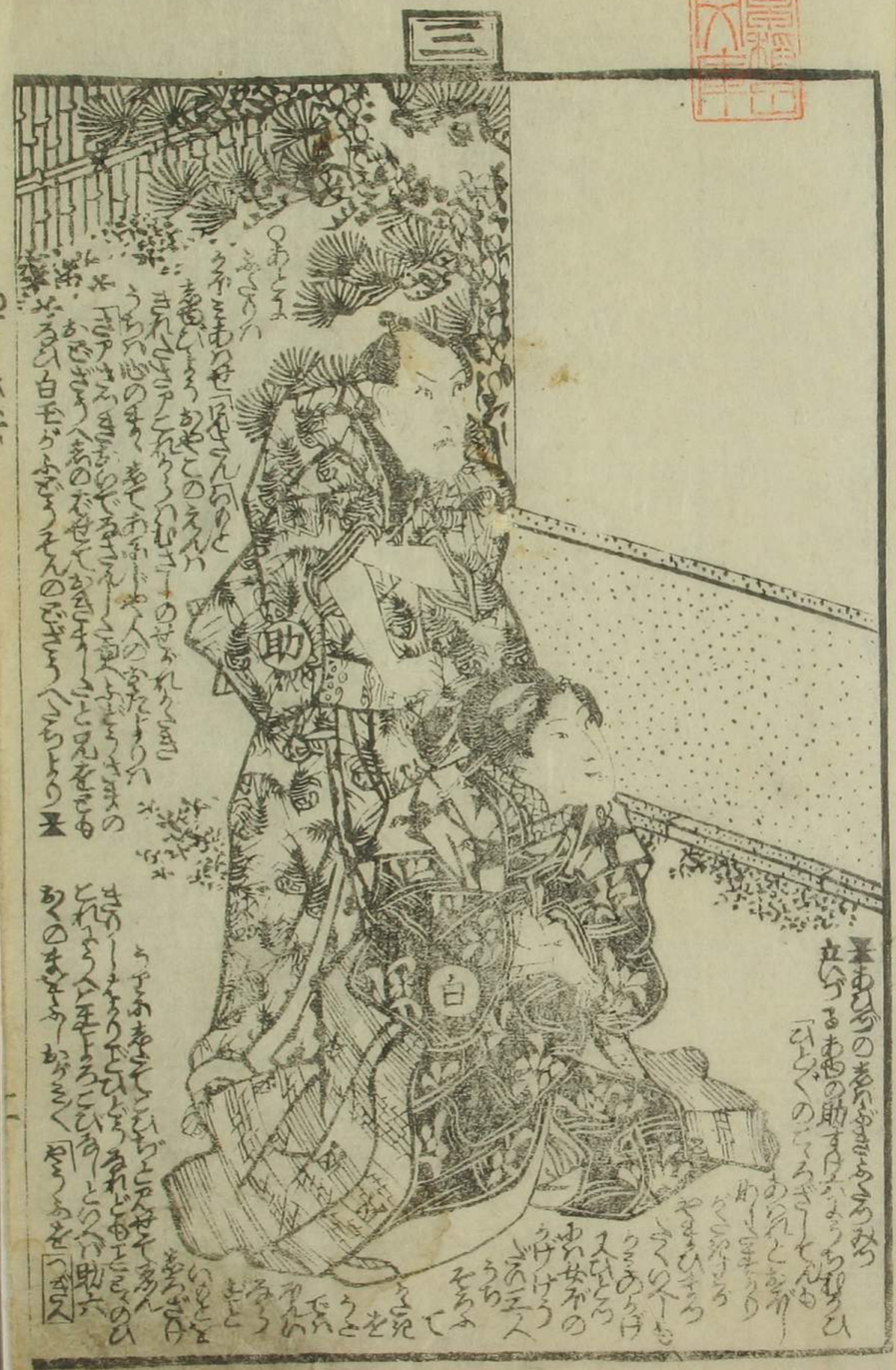
小三馬作

國貞画

後編下卷

丁酉新彫

喜鶴堂板



助
房

白
助

助
定

仙
大吉

つぎ　せいていのまとをそんずるこれらは
まるせてあきのくとみくわにようせいのやらん
さてやきさくらんさいらぐべらの亭ちゃへ
えをもきさん
○む　きうハ
いぜうのみくゆて
さちらいでゆりーえる
けの
五らくとつとめくさ
子ゆまん町でらるとりの
げいとるんとときれいで
でぞりまぜうるんれ
ひきやうの久るらんでゆ

あとさらぶさまちうりで
そぶふえんがあるとのつて
あまりたのめんをまるで
えをくさやうぐすけのえんさ
けのこやついてきさ男ぞまが
たんちゃよちゃ目ゑんがきやうの
とーえてのーこのこ者えんと
ちっぐなよ者ってやってうり
ぐさりまぜえろ「ーヤ
それのめのこく者さぶあく
ふさとおれたぐちさんくの
えさう　もきがからつて
又おのーろうろいっ
ゆもちぐをよるりまぜう
それいるホよくうちけれ
さうくぐんるのあーぐ
めんをそろそよきをともちく
そんをーこめんぐさりまを
とあすくいるるけのこの主
あとのつぐらてお川きやう
どのかろうきやくちう
のづれがそれとろよう
うえんさのいびっくり
きれどさあーぬるれ
玉川きやうどのさう
ちうより「ーえくそう
とさあいうられどめん
ていろこーきんぞん
ぐさまぞきーぬるれまる

これくをてろさえと
ちうんぐーと
ひるぐれを
まいのの
よこーられど
とあちられで
うのやまやう
ぎつこれく
きやうぐちを
ぐうきをれさう
ゆよやのれ数
井の上きうる
ぜうぶくとまで
れどめん者ちく
うのつてまちく
とくちー「ーう
ぎんけんで
のぐるや
ぐ者あのひこんぐる
玉川きやうどの
さそれむきてうぐう
ゆびきーどるヤア
おろうやおきう

このお玉いそれりーが
いりとまりく玉りく者ちうおう
六人ぜんまんぐんくもあのれ
ぬきふうーぐそちさろ久るどの

助
房
久
無
若
白
鮎

仙

夕

○かくて玉川は年うぶのいろ沢きうるとあまびよく
うちそろ〜めのわ兄山川あんぞうよりくよりあげ
けれがたちまちどの、ぎよりんあめるぞこのこびの
るぶらをあやうしあり山川玉川あるあ
あくくんあるそうあり山川玉川あるあ
かそうとあるりけ。あ西の助いむきしと
りのめの〜助六おふさ。
あんべふ白玉。あく
ことめてあるうげん
のさうづきを
とりひきもひ
○ひさ〜あうろ。
助六おふさ。
あんべふ白玉。
こるうふこもあ
るうりつまぐく
仙平五休
あいあるくの
こがひとあうて
けれがあるる
ぐさうくとろ
うまくとめとり
もへるぐく
よろぐ五へ
ひでのける
ひきうハ
八十よ玉の
あるをを
たりち

○江戸本町三丁目武亭正錦菜品目録　代百文

月やくふ雲西んどきとる名方　天女丸　二十四文

ちうとのあんせぬこるやうやく

●凡くのけいもいでこれいさあくの所と

るるのるこれを見ひて

なくつしさするる吉

のるるるるるとこ不きる所

のるるるるるとこ西とる

●らまとうきこふ

こ盃すくるり体つれて七ところ

たびやこ、あるるるの之五三五年

ちうのあんせきれいれるやうの

人とこるるるは羽しぎう

ゆそのの年もちとらあんせぎ

あるやうるこるるるるるの年を

やまむへ〜その月とりうこるあん

もるるり

○あるるのるくのるれるるの菜　代三十二文

江戸のあ　代三十文

代百文月六十四文

代百三十文月六十四文

百文

●あきらの丸

妙薬れるるの

ひきるめ一切ひるあもやふふり

夏ををるるおあるるのるびざきる

ちやるふてうやとやるあるるのの

うるのあきるるるふうくのりて

えびざるあうけあひるり

ひげをそうぞ
けれが人ようで
ひげの
ひーとうや
やうそのひさあらい
るあうけ〜〜主人

●ロクスるるがぞこのとこむ
らひまろもろやるれらるるをを
いとをとをこうとくいをこどきそうとれ
るうける。あんでう。かきよっえる耳。
助あるんかのくのんきよるるまへあるく
八十よ玉のあるをそうちあされ山川玉川
開田方盃の四ふあひるあるるのちを
あるく男女あるこのるをまうけるるあ
るるるるるる

天保八丁酉年孟春發版目録

墨川亭雪麿作

傾城三國志第五編 全四冊 香蝶樓國貞画

今昔俤説花 全四冊 勇齋國芳画

西國奇談 **月の夜神樂** 五柳亭徳升作 三編全六冊 溪齋英泉画

墨川亭雪麿作

梅松論竹取物語 全四冊 五雲亭貞秀画

東國奇談 **月の夜櫻** 五柳亭徳升作 二編全冊 歌川國芳画

美濃屋三勝 近江屋平七 **寐物語夢白鞘** 全冊 五柳亭徳升作 勇齋國芳画

式亭小三馬作

二人比丘尼 二人揚巻 **江戸紫手染色揚** 全八冊 香蝶樓國貞画

美艶仙女香 黒油美女香

坂本氏製

地本 續草紙問屋 芝神明前三嶋町角 佐野屋喜兵衛板

扇團 **喜鶴堂**

奉書長切 **五十三次景色入女繪** 極彩色摺 香蝶樓國貞画